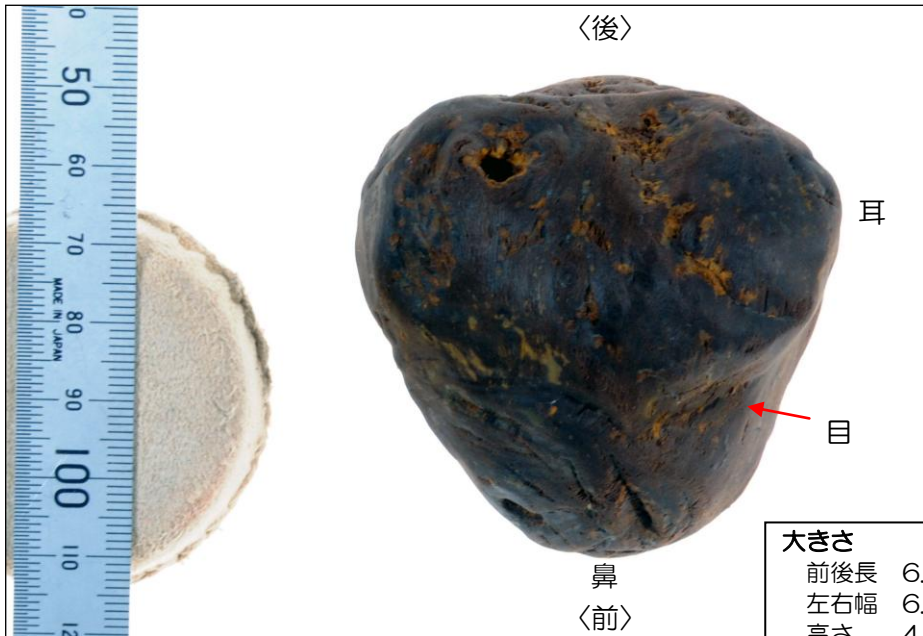


最古の猫形の操り人形、鹿田遺跡で発見

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター



発見地点
(鹿田キャンパス・防火水槽地点)

大きさ
前後長 6.3 cm
左右幅 6.4 cm
高さ 4.5 cm

二箇所の軸穴の存在
・資料の右前面(貫通)
・後ろ(非貫通)
→「操り人形」を示唆

猫形木製品 (真上からの写真)

鹿田遺跡における

猫形木製品発見の意義—芸能史と地域史—

- ◎ 11世紀中頃(平安時代後半)の井戸の中から出土
- ◎ 全国2例目の猫形木製品。
類例: 鎌倉市円覚寺門前遺跡「山猫形木製品」(14世紀後半)。
- ◎ 動物形の操り人形として**最古の例**。
これまで14世紀前半の鹿田遺跡出土の猿形木製品が最古(右写真)。
本資料はそれを約300年遡る事例
- ◎ 猫形木製品は、古代・中世の芸能民である**傀儡(くぐつ)**が使用した操り人形の可能性が高い。
- ◎ 鹿田荘(しかたのしょう)の性格を考える上でも重要



猿形木製品 (鹿田遺跡)

傀儡(くぐつ)とは

- ◎ 主として狩猟生活を営みながら、幻術的な芸能をおこなうもの
- ◎ 文献では8世紀末から存在が確認
- ◎ 交通の要衝(港津や街道宿場)を拠点に移動生活をおくる